

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商 品 分 類	追加型投信／海外／株式	
信 託 期 間	無期限	
運 用 方 針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	ダイワ・ロシア株マザーファンドの受益証券
	ダイワ・ロシア株マザーファンド	ロシアの金融商品取引所上場株式および店頭登録株式（上場予定および店頭登録予定を含みます。）ならびにロシアの企業のＤＲ（預託証券）
マザーファンドの運用方法	①主としてロシアの株式（※）の中から、豊富な天然資源の強みを背景に、国内需要の拡大など産業構造の変化が進むロシア経済において、成長が期待される企業に投資することにより、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。 （※）株式…ＤＲ、米ドル建ての株式等を含みますので、投資対象国以外の通貨の為替リスクが発生する場合があります。 ②運用にあたっては、以下の点に留意しながら投資することを基本とします。 イ. 業績動向、流動性等により銘柄の定量分析を行ない、投資対象銘柄を決定します。 ロ. 財務内容、経営陣の評価、セクター内の競争力、バリュエーション、利益成長等に着目し、買付候補銘柄を決定します。 ハ. ポートフォリオの構築においては、業種分散、銘柄分散を考慮します。 ③外貨建資産の運用にあたっては、デカ・インベストメント社に運用の指図にかかる権限を委託します。 ④株式の組入比率は、通常の状態では信託財産の純資産総額の80％程度以上に維持することを基本とします。 ⑤保有外貨建資産の為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。	
	株式組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率 マザーファンドの株式組入上限比率
分 配 方 針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ないます。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてマザーファンド（当ファンド）とし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行なう仕組みです。

ダイワ・ロシア株ファンド

運用報告書(全体版)
第16期

(決算日 2016年2月22日)

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「ダイワ・ロシア株ファンド」は、このたび、第16期の決算を行ないました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

お問い合わせ先（コールセンター）

TEL 0120-106212

（営業日の9：00～17：00）

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

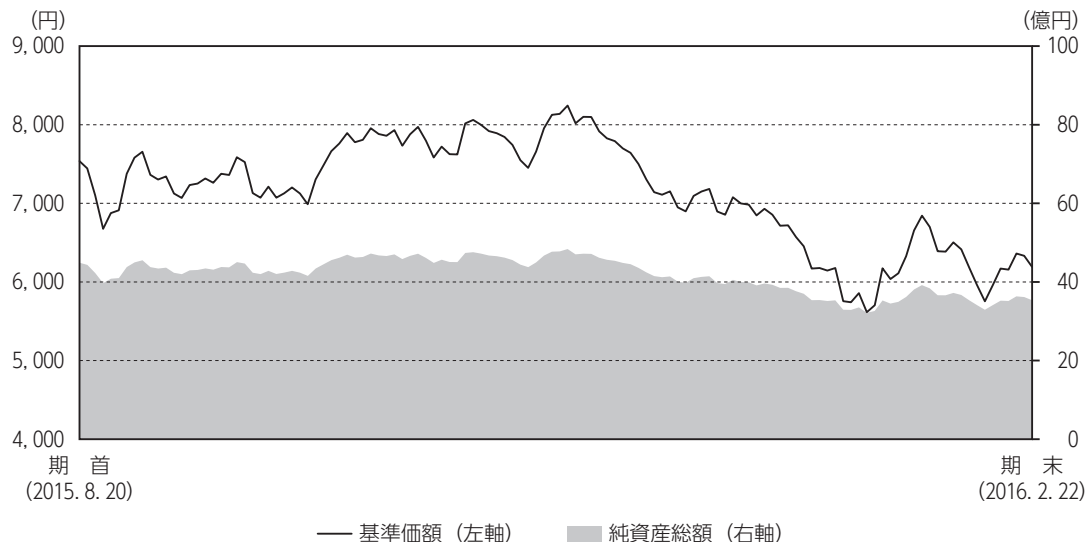
最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			M S C I ロシア10/40指数 (配当込み、円換算)		株 式 組入比率	株 式 先物比率	純資産 総 額
		税込み 分配金	期 中 騰落率	(参考指数)	期 中 騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
12期末(2014年 2 月20日)	8, 228	0	2. 5	6, 767	△ 0. 3	93. 6	—	5, 378
13期末(2014年 8 月20日)	8, 588	0	4. 4	6, 934	2. 5	93. 2	—	5, 161
14期末(2015年 2 月20日)	7, 914	0	△ 7. 8	6, 181	△ 10. 9	93. 1	—	5, 023
15期末(2015年 8 月20日)	7, 536	0	△ 4. 8	5, 950	△ 3. 7	90. 7	—	4, 489
16期末(2016年 2 月22日)	6, 190	0	△ 17. 9	4, 990	△ 16. 1	90. 4	—	3, 534

- (注 1) M S C I ロシア10/40指数 (配当込み、円換算) は、M S C I Inc. の承諾を得て、M S C I ロシア10/40指数 (配当込み、米ドルベース) をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和投資信託が計算したものです。M S C I ロシア10/40指数 (配当込み、米ドルベース) は、M S C I Inc. が開発した株価指数で、同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はM S C I Inc. に帰属します。また M S C I Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- (注 2) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。
- (注 3) 株式および株式先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。
- (注 4) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。

《運用経過》

基準価額等の推移について



■ 基準価額・騰落率

期 首：7,536円

期 末：6,190円

騰落率：△17.9%

■ 基準価額の主な変動要因

マザーファンドを通じてロシアの株式に投資した結果、主にロシア・ルーブルが下落したことにより、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ・ロシア株ファンド

年 月 日	基 準 価 額		M S C I ロシア10/40指数 (配当込み、円換算)		株 式 組入比率	株 式 先物比率
		騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
	円	%		%	%	%
(期首) 2015年 8 月20日	7,536	—	5,950	—	90.7	—
8 月末	7,582	0.6	5,984	0.6	94.6	—
9 月末	7,127	△ 5.4	5,689	△ 4.4	95.9	—
10月末	7,626	1.2	6,087	2.3	92.0	—
11月末	7,916	5.0	6,314	6.1	91.5	—
12月末	6,931	△ 8.0	5,598	△ 5.9	95.9	—
2016年 1 月末	6,656	△ 11.7	5,368	△ 9.8	96.0	—
(期末) 2016年 2 月22日	6,190	△ 17.9	4,990	△ 16.1	90.4	—

(注) 騰落率は期首比。

投資環境について

○ロシア株式市況

ロシア株式市況は、現地通貨ベースで上昇しました。期首から2015年10月中旬にかけて、原油価格の反発や米国の軟調な雇用統計を受けた2015年末までの利上げ観測後退などが好感されて上昇しました。11月中旬にかけて、原油価格の値下がりを受けて下落に転じる局面もありましたが、G20（20カ国財務大臣・中央銀行総裁会議）でロシアのプーチン大統領と米国のオバマ大統領が会談したことを受けて、2カ国がテロに対して共闘する可能性や西側諸国によるロシアへの経済制裁の緩和観測などが台頭し、反発に転じました。その後、ロシアの戦闘機がトルコに撃墜されたことを受けてロシアを取り巻く地政学的リスクが高まるとの見方が強まったことに加え、原油価格が下落基調となったこと、中国の株式市況や人民元が下落し投資家のリスク回避姿勢が強まったことなどを受けて、2016年1月中旬にかけて下落しました。期末にかけては、ECB（欧州中央銀行）総裁が追加金融緩和を示唆する発言をしたことや産油国が協調減産に取り組むとの見方が浮上したことなどが支援材料となり、下落幅を縮小する展開となりました。

○為替相場

対円で見たロシア・ルーブルは、原油価格の落ち着きやロシア株式市場の回復などを背景に、期首から2015年10月中旬にかけて緩やかな上昇基調となりました。その後、前述のように原油価格の下落、トルコによるロシア戦闘機の撃墜、中国の株式市況や人民元の下落などを受けた投資家のリスク回避姿勢の強まりなどが嫌気され、2016年1月中旬にかけて下落基調となりました。期末にかけては、ECB総裁が追加金融緩和を示唆する発言をしたことや原油価格の反発などを受けて上昇する局面もありましたが、世界的にリスク資産を敬遠する動きが強まる中、上値の重い展開が続きました。

前期における「今後の運用方針」

○当ファンド

「ダイワ・ロシア株マザーファンド」の受益証券へ投資を行ないます。

○ダイワ・ロシア株マザーファンド

当ファンドは、豊富な天然資源の強みを背景に、国内需要の拡大など産業構造の変化が進むロシア経済において、成長が期待される企業に投資することにより、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。ロシアを取り巻く不透明要因が多い中、業種については、内需回復による恩恵が期待される生活必需品などの投資妙味が高いと考えています。また、原油価格が低水準にあるものの、相対的に安定的なキャッシュフローが見込まれることに加え、ルーブル安米ドル高の恩恵が期待される銘柄を中心としたエネルギーセクターにも注目しています。一方で、電気通信サービスや公益事業セクターについては、引き続き慎重な見方をしています。株式組入比率については、テクニカルな株価反発等の可能性も勘案し、機動的に対応していきます。

外貨建資産の運用にあたっては、デカ・インベストメント社に運用の指図にかかる権限を委託し、今後の運用を行なってまいります。

ポートフォリオについて

○当ファンド

「ダイワ・ロシア株マザーファンド」の受益証券へ投資しました。

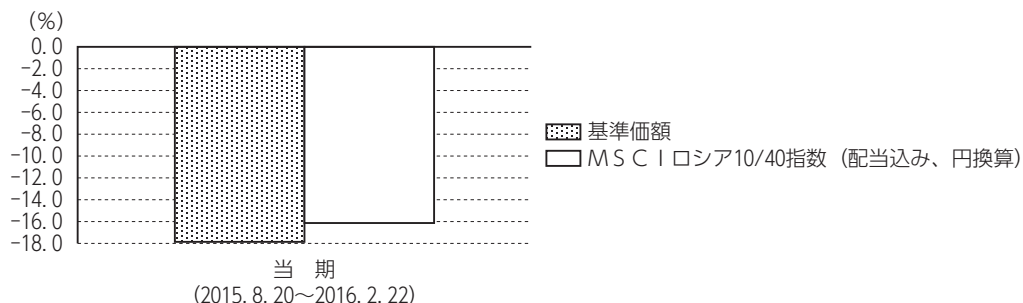
○ダイワ・ロシア株マザーファンド

悪材料が株価に織り込まれ、今後の緩やかな貸出需要の回復が期待される金融、ルーブル安米ドル高による恩恵が期待される銘柄を中心とした素材に加え、原油価格が低水準にあるものの、相対的に安定したキャッシュフローが見込まれる銘柄を中心としたエネルギーセクターの組入比率を高位としました。一方で、規制リスクや国内景気の減速による影響が懸念された公益事業セクターに対しては慎重な投資姿勢を維持しました。原油価格の下落がマイナス要因となったものの、安定的なキャッシュフローを有する GAZPROM（エネルギー）、業績見通しの上方修正が期待された MOSCOW EXCHANGE（金融）などを買付けました。一方で、内需回復の遅れの影響が懸念された MAGNIT（生活必需品）、相対的な割安感が低下してきた AK TRANSNEFT PRF（エネルギー）などを売却しました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当期は、基準価額の水準等を勘案し、収益分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2015年8月21日 ～2016年2月22日	
当期分配金（税込み）	(円)	—
対基準価額比率	(%)	—
当期の収益	(円)	—
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	799

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

《今後の運用方針》

○当ファンド

「ダイワ・ロシア株マザーファンド」の受益証券へ投資を行ないます。

○ダイワ・ロシア株マザーファンド

当ファンドは、豊富な天然資源の強みを背景に、国内需要の拡大など産業構造の変化が進むロシア経済において、成長が期待される企業に投資することにより、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。原油価格が低水準にあるものの、相対的に安定的なキャッシュフローが見込まれることに加え、ルーブル安米ドル高の恩恵が期待される銘柄を中心としたエネルギーセクターにも注目しています。一方で、公益事業セクターについては、引き続き慎重な見方をしています。株式組入比率については、テクニカルな株価反発等の可能性も勘案し、機動的に対応していきます。

外貨建資産の運用にあたっては、デカ・インベストメント社に運用の指図にかかる権限を委託し、今後の運用を行なってまいります。

1 万口当りの費用の明細

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	(2015. 8. 21～2016. 2. 22)		
	金 額	比 率	
信託報酬	66円	0. 922%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は7, 132円です。
(投信会社)	(31)	(0. 439)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販売会社)	(31)	(0. 439)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	(3)	(0. 044)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	39	0. 549	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(39)	(0. 549)	
有価証券取引税	0	0. 000	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0. 000)	
その他費用	20	0. 276	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保管費用)	(15)	(0. 210)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0. 003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(4)	(0. 063)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	125	1. 746	

(注 1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注 2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注 3) 比率欄は 1 万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

ダイワ・ロシア株ファンド

■売買および取引の状況
親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2015年 8月21日から2016年 2月22日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ・ロシア株マザーファンド	10,294	8,000	247,440	205,000

(注) 単位未満は切捨て。

■株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

(2015年 8月21日から2016年 2月22日まで)

項 目	当 期
	ダイワ・ロシア株マザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	11,513,738千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	4,054,397千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	2.83

(注 1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注 2) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表
親投資信託残高

種 類	期 首	当 期 末	
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ・ロシア株マザーファンド	5,237,204	5,000,058	3,514,541

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2016年 2月22日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ・ロシア株マザーファンド	3,514,541	98.3
コール・ローン等、その他	61,353	1.7
投資信託財産総額	3,575,894	100.0

(注 1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注 2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、2月22日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝112.85円です。

(注 3) ダイワ・ロシア株マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(3,514,957千円)の投資信託財産総額(3,675,770千円)に対する比率は、95.6%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2016年 2月22日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	3,575,894,742円
コール・ローン等	61,353,555
ダイワ・ロシア株マザーファンド (評価額)	3,514,541,187
(B) 負債	41,765,517
未払解約金	3,080,471
未払信託報酬	38,570,346
その他未払費用	114,700
(C) 純資産総額 (A－B)	3,534,129,225
元本	5,709,443,791
次期繰越損益金	△ 2,175,314,566
(D) 受益権総口数	5,709,443,791口
1万口当り基準価額 (C/D)	6,190円

* 期首における元本額は5,956,704,569円、当期中における追加設定元本額は196,355,574円、同解約元本額は443,616,352円です。

* 当期末の計算口数当りの純資産額は6,190円です。

* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は2,175,314,566円です。

■損益の状況

当期 自2015年 8月21日 至2016年 2月22日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	16,699円
受取利息	16,699
(B) 有価証券売買損益	△ 719,694,054
売買益	23,681,136
売買損	△ 743,375,190
(C) 信託報酬等	△ 38,685,046
(D) 当期損益金 (A + B + C)	△ 758,362,401
(E) 前期繰越損益金	△ 519,438,276
(F) 追加信託差損益金	△ 897,513,889
(配当等相当額)	(167,397,818)
(売買損益相当額)	(△ 1,064,911,707)
(G) 合計 (D + E + F)	△ 2,175,314,566
次期繰越損益金 (G)	△ 2,175,314,566
追加信託差損益金	△ 897,513,889
(配当等相当額)	(167,397,818)
(売買損益相当額)	(△ 1,064,911,707)
分配準備積立金	288,903,212
繰越損益金	△ 1,566,703,889

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は「収益分配金の計算過程（総額）」の表を参照。

(注4) 投資信託財産（親投資信託）の運用の指図に係る権限の全部または一部を委託するために要する費用：8,449,990円（未監査）

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	7,685,801円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収益調整金	167,397,818
(d) 分配準備積立金	281,217,411
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	456,301,030
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	456,301,030
(h) 受益権総口数	5,709,443,791口

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

《お知らせ》

●ロシア取引システム（RTS）の名称変更について

当ファンドはロシア取引システム（RTS）の休業日を購入・換金の申込受付停止日としていましたが、当該取引所の名称が合併等によりモスクワ取引所となったことに伴い、所要の約款変更を行ないました。

ダイワ・ロシア株マザーファンド

運用報告書 第16期（決算日 2016年2月22日）

（計算期間 2015年8月21日～2016年2月22日）

ダイワ・ロシア株マザーファンドの第16期にかかる運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	ロシアの金融商品取引所上場株式および店頭登録株式（上場予定および店頭登録予定を含みます。）ならびにロシアの企業のD R（預託証券）
運用方法	①主としてロシアの株式（※）の中から、豊富な天然資源の強みを背景に、国内需要の拡大など産業構造の変化が進むロシア経済において、成長が期待される企業に投資することにより、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。 （※）株式…D R、米ドル建ての株式等を含みますので、投資対象国以外の通貨の為替リスクが発生する場合があります。 ②運用にあたっては、以下の点に留意しながら投資することを基本とします。 イ、業績動向、流動性等により銘柄の定量分析を行ない、投資対象銘柄を決定します。 ロ、財務内容、経営陣の評価、セクター内の競争力、バリュエーション、利益成長等に着眼し、買付候補銘柄を決定します。 ハ、ポートフォリオの構築においては、業種分散、銘柄分散を考慮します。 ③外貨建資産の運用にあたっては、デカ・インベストメント社に運用の指図にかかる権限を委託します。 ④株式の組入比率は、通常の状態では信託財産の純資産総額の80%程度以上に維持することを基本とします。 ⑤保有外貨建資産の為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。
株式組入制限	無制限

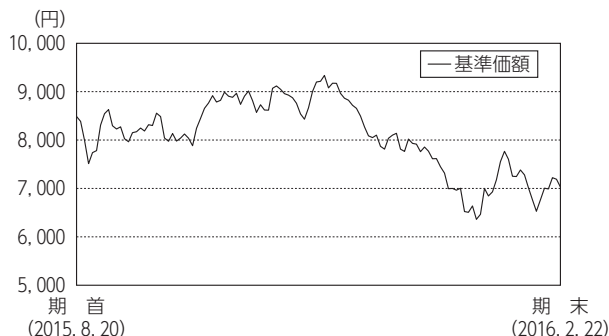
大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

■当期中の基準価額と市況の推移



年 月 日	基準 価 額		MSCIロシア10/40指数 (配当込み、円換算) (参考指数)		株 式 組入比率	株 式 先物比率
	円	騰落率	騰落率	%	%	%
(期首) 2015年 8月20日	8,488	—	5,950	—	91.6	—
8月末	8,545	0.7	5,984	0.6	95.5	—
9月末	8,040	△ 5.3	5,689	△ 4.4	96.8	—
10月末	8,621	1.6	6,087	2.3	92.6	—
11月末	8,965	5.6	6,314	6.1	92.1	—
12月末	7,856	△ 7.4	5,598	△ 5.9	96.4	—
2016年 1月末	7,553	△ 11.0	5,368	△ 9.8	96.6	—
(期末) 2016年 2月22日	7,029	△ 17.2	4,990	△ 16.1	90.9	—

(注1) MSCIロシア10/40指数 (配当込み、円換算) は、MSCI Inc. の承諾を得て、MSCIロシア10/40指数 (配当込み、米ドルベース) をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和投資信託が計算したものです。MSCIロシア10/40指数 (配当込み、米ドルベース) は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(注2) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注3) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：8,488円 期末：7,029円 騰落率：△17.2%

【基準価額の主な変動要因】

当期の基準価額は、主にロシア・ルーブルが下落したことにより下落しました。

◆投資環境について

○ロシア株式市況

ロシア株式市況は、現地通貨ベースで上昇しました。期首から2015年10月中旬にかけて、原油価格の反発や米国の軟調な雇用統計を受けた2015年末までの利上げ観測後退などが好感されて上昇しました。11月中旬にかけて、原油価格の値下がりを受けて下落に転じる局面もありましたが、G20 (20カ国財務大臣・中央銀行総裁会議) でロシアのプーチン大統領と米国のオバマ大統領が会談したことを受けて、2カ国がテロに対して共闘する可能性や西側諸国によるロシアへの経済制裁の緩和観測などが台頭し、反発に転じました。その後、ロシアの戦闘機がトルコに撃墜されたことを受けてロシアを取り巻く地政学的リスクが高まるとの見方が強まったことに加え、原油価格が下落基調となったこと、中国の株式市況や人民元が下落し投資家のリスク回避姿勢が強まったことなどを受けて、2016年1月中旬にかけて下落しました。期末にかけては、ECB (欧州中央銀行) 総裁が追加金融緩和を示唆する発言をしたことや産油国が協調減産に取り組むとの見方が浮上したことなどが支援材料となり、下落幅を縮小する展開となりました。

○為替相場

対円で見たロシア・ルーブルは、原油価格の落ち着いたことやロシア株式市場の回復などを背景に、期首から2015年10月中旬にかけて緩やかな上昇基調となりました。その後、前述のように原油価格の下落、トルコによるロシア戦闘機の撃墜、中国の株式市況や人民元の下落などを受けた投資家のリスク回避姿勢の強まりなどが嫌気され、2016年1月中旬にかけて下落基調となりました。期末にかけては、ECB総裁が追加金融緩和を示唆する発言をしたことや原油価格の反発などを受けて上昇する局面もありましたが、世界的にリスク資産を敬遠する動きが強まる中、上値の重い展開が続きました。

◆前期における「今後の運用方針」

当ファンドは、豊富な天然資源の強みを背景に、国内需要の拡大など産業構造の変化が進むロシア経済において、成長が期待される企業に投資することにより、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。ロシアを取り巻く不透明要因が多い中、業種については、内需回復による恩恵が期待される生活必需品などの投資妙味が高いと考えています。また、原油価格が低水準にあるものの、相対的に安定的なキャッシュフローが見込まれることに加え、ルーブル安米ドル高の恩恵が期待される銘柄を中心としたエネルギーセクターにも注目しています。一方で、電気通信サービスや公益事業セクターについては、引き続き慎重な見方をしていきます。株式組入比率については、テクニカルな株価反発等の可能性も勘案し、機動的に対応していきます。

外貨建資産の運用にあたっては、デカ・インベストメント社に運用の指図にかかる権限を委託し、今後の運用を行なってまいります。

◆ポートフォリオについて

悪材料が株価に織り込まれ、今後の緩やかな貸出需要の回復が期待される金融、ルーブル安米ドル高による恩恵が期待される銘柄を中心とした素材に加え、原油価格が低水準にあるものの、相対的に安定的なキャッシュフローが見込まれる銘柄を中心としたエネルギーセクターの組入比率を高位としました。一方で、規制リスクや国内景気の減速による影響が懸念された公益事業セクターに対しては慎重な投資姿勢を維持しました。原油価格の下落がマイナス要因となったものの、安定的なキャッシュフローを有するGAZPROM (エネルギー)、業績見通しの上方修正が期待されたMOSCOW EXCHANGE (金融) などを買い付けました。一方で、内需回復の遅れの影響が懸念されたMAGNIT (生活必需品)、相対的な割安感が低下してきたAK TRANSNEFT PRF (エネルギー) などを売却しました。

ダイワ・ロシア株マザーファンド

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは、運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

当期の参考指数（MSCIロシア10/40指数（配当込み、円換算））の騰落率は△16.1%となりました。一方、当ファンドの騰落率は△17.2%となりました。

《今後の運用方針》

当ファンドは、豊富な天然資源の強みを背景に、国内需要の拡大など産業構造の変化が進むロシア経済において、成長が期待される企業に投資することにより、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。原油価格が低水準にあるものの、相対的に安定的なキャッシュフローが見込まれることに加え、ルーブル安米ドル高の恩恵が期待される銘柄を中心としたエネルギーセクターにも注目しています。一方で、公益事業セクターについては、引き続き慎重な見方をしています。株式組入比率については、テクニカルな株価反発等の可能性も勘案し、機動的に対応していきます。

外貨建資産の運用にあたっては、デカ・インベストメント社に運用の指図にかかる権限を委託し、今後の運用を行なってまいります。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料 (株式)	45円 (45)
有価証券取引税 (株式)	0 (0)
その他費用 (保管費用) (その他)	22 (17) (5)
合 計	66

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出方法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

株 式

(2015年8月21日から2016年2月22日まで)

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
外国	ロシア	百株 904,549.5 ()	千アメリカ・ドル 47,517 ()	百株 896,930.4 ()	千アメリカ・ドル 48,667 ()

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) ()内は株式分割、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

株 式

(2015年8月21日から2016年2月22日まで)

当 期				期 付			
買 付		売 付		株 数		金 額	
銘 柄	株 数	金 額	平均単価	銘 柄	株 数	金 額	平均単価
	千株	千円	円		千株	千円	円
MAGNIT PJSC-SPON GDR REGS (ロシア)	137.5	583,474	4,243	MAGNIT PJSC-SPON GDR REGS (ロシア)	147.5	699,012	4,739
GAZPROM PAO (ロシア)	2,320	542,488	233	LUKOIL PJSC-SPON ADR (ロシア)	157.5	596,502	3,787
ALROSA PAO (ロシア)	5,150	521,204	101	ALROSA PAO (ロシア)	5,300	524,645	98
LUKOIL PJSC (ロシア)	117.5	437,191	3,720	SBERBANK OF RUSSIA PJSC (ロシア)	3,240	516,988	159
LUKOIL PJSC-SPON ADR (ロシア)	107.5	436,042	4,056	LUKOIL PJSC (ロシア)	87.5	348,888	3,987
SBERBANK OF RUSSIA PJSC (ロシア)	2,390	365,031	152	MMC NORILSK NICKEL OJSC (ロシア)	17.5	283,866	16,220
MMC NORILSK NICKEL PJSC-ADR (ロシア)	180	264,485	1,469	MAGNIT PJSC (ロシア)	15	280,782	18,718
MMC NORILSK NICKEL OJSC (ロシア)	15	253,204	16,880	SEVERSTAL - GDR REG S (ロシア)	235	264,325	1,124
MAGNIT PJSC (ロシア)	12.5	247,069	19,765	GAZPROM PAO (ロシア)	1,120	253,834	226
SURGUTNEFTGAS-PREFERENCE (ロシア)	3,000	229,677	76	MMC NORILSK NICKEL PJSC-ADR (ロシア)	155	252,024	1,625

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■組入資産明細表
外国株式

銘柄		期首	当	期末		業種等
		株数	株数	評価額		
				外貨建金額	邦貨換算金額	
		百株	百株	千アメリカ・ドル	千円	
(ロシア)						
MOBILE TELESYSTEMS-SP ADR		800	1,880	1,370	154,663	電気通信サービス
VTB BANK JSC -GDR-REG S		6,500	—	—	—	金融
MMC NORILSK NICKEL PJSC-ADR		600	850	955	107,864	素材
MAGNIT PJSC-SPON GDR REGS		900	800	2,528	285,284	生活必需品
MEGAFON-REG S GDR		1,000	1,255	1,430	161,454	電気通信サービス
URALKALI PJSC-SPON GDR-REG S		650	—	—	—	素材
SBERBANK PAO -SPONSORED ADR		—	200	111	12,594	金融
NOVATEK OAO-SPONS GDR REG S		175	182.5	1,509	170,321	エネルギー
LUKOIL PJSC-SPON ADR		750	250	818	92,395	エネルギー
ROSNEFT OJSC-REG S GDR		3,150	1,750	616	69,515	エネルギー
SEVERSTAL - GDR REG S		1,600	—	—	—	素材
SURGUTNEFTEGAS-PREFERENCE		15,000	15,000	862	97,333	エネルギー
ALROSA PAO		17,500	16,000	1,440	162,504	素材
MOSCOW EXCHANGE MICEX-RTS		10,000	13,150	1,549	174,812	金融
SBERBANK OF RUSSIA PJSC		30,000	21,500	2,865	323,422	金融
MAGNIT PJSC		25	—	—	—	生活必需品
AK TRANSNEFT OAO-PREF		7.95	4.55	1,173	132,432	エネルギー
URALKALI		2,500	—	—	—	素材
SEVERSTAL		—	1,600	1,342	151,453	素材
AEROFLOT-RUSSIAN AIRLINES		—	10,180	707	79,842	資本財・サービス
ROSTELECOM PJSC		6,750	6,750	776	87,675	電気通信サービス
TATNEFT PAO-CLS		3,550	3,200	1,321	149,142	エネルギー
SURGUTNEFTEGAS		14,312.64	14,312.64	711	80,274	エネルギー
MMC NORILSK NICKEL OJSC		25	—	—	—	素材
GAZPROM PAO		5,500	17,500	3,113	351,330	エネルギー
ROSNEFT OAO		1,000	3,250	1,172	132,291	エネルギー
LUKOIL PJSC		350	650	2,141	241,645	エネルギー
ファンド合計	株数、金額	122,645.59	130,264.69	28,517	3,218,254	
	銘柄数<比率>	24銘柄	21銘柄		<90.9%>	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) < >は純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 評価額の単位未満は切捨て。

ダイワ・ロシア株マザーファンド

■投資信託財産の構成

項 目	2016年 2月22日現在 当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	3, 218, 254	87. 6
コール・ローン等、その他	457, 515	12. 4
投資信託財産総額	3, 675, 770	100. 0

(注 1) 評価額の単位未満は切捨て。
(注 2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、2月22日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝112.85円です。
(注 3) 当期末における外貨建純資産 (3,514,957千円) の投資信託財産総額 (3,675,770千円) に対する比率は、95.6% です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2016年 2月22日現在	
項 目	当 期 末
(A) 資産	3, 675, 770, 615円
コール・ローン等	223, 202, 410
株式 (評価額)	3, 218, 254, 925
未収入金	234, 313, 280
(B) 負債	136, 078, 124
未払金	136, 078, 124
(C) 純資産総額 (A－B)	3, 539, 692, 491
元本	5, 036, 177, 194
次期繰越損益金	△ 1, 496, 484, 703
(D) 受益権総口数	5, 036, 177, 194口
1万口当り基準価額 (C／D)	7, 029円

* 期首における元本額は5,277,972,796円、当期中における追加設定元本額は11,407,446円、同解約元本額は253,203,048円です。
* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ・ロシア株ファンド (FOFs 用) (適格機関投資家専用) 19,559,106円、ダイワ・ロシア株ファンド5,000,058,597円、ダイワ新興 4 カ国株式ファンド (ダイワ S MA 専用) 16,559,491円です。
* 当期末の計算口数当りの純資産額は7,029円です。
* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は1,496,484,703円です。

■損益の状況

当期 自2015年 8月21日 至2016年 2月22日	
項 目	当 期
(A) 配当等収益	44, 603, 781円
受取配当金	44, 595, 688
受取利息	8, 093
(B) 有価証券売買損益	△ 773, 270, 937
売買益	238, 984, 349
売買損	△ 1, 012, 255, 286
(C) その他費用	△ 11, 292, 039
(D) 当期損益金 (A + B + C)	△ 739, 959, 195
(E) 前期繰越損益金	△ 797, 821, 110
(F) 解約差損益金	43, 803, 048
(G) 追加信託差損益金	△ 2, 507, 446
(H) 合計 (D + E + F + G)	△ 1, 496, 484, 703
次期繰越損益金 (H)	△ 1, 496, 484, 703

(注 1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。
(注 2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。